

# 中村学園女子高等学校

## 地球規模の課題「食」を通じた グローバル・リーダーの育成

### 【構想の概要】

グローバル・リーダーに必要な資質を、「食」という地球規模の課題に対し、国内外の機関と連携して解決に取り組むことを通じて育成する。併せて、グローバル・リーダー育成のために必要な教育課程、ルーブリックによる評価法を開発する。



平成30年度 教育課程表

教科	科目	標準 単位	高 1			高 2			高 3		
			進学 以外	進学 文系	進学 理系	進学 文理総合	進学 文系	進学 理系	進学 文理総合		
国語	国語総合	4	5	5							
	現代文B	4			3	3	3	3	3	3	3
	古典B	4			4	4	4	3	3	4	
地理 歴史	世界史 A	2	2	2							
	世界史 B	4			4			4			
	日本史 A	2	2	2				5			5
	日本史 B	4									
地理 B	4			3	3			3	3		
公民	現代社会	2	2	2							
数学	数学 I	3	3	4							
	数学 II	4			4	3	4	4	2		
	数学 III	5							5		
	数学 A	2	2	2						2	
	数学 B	2			3	3	3		2	2	3
	数学演習	2								3	2
理科	物理基礎	2	2	2							
	物理	4									
	化学基礎	2			3	2		3			
	化学	4					2	3			3
	生物基礎	2	2	2							4
	生物	4									
保健 体育	化学基礎演習	2							3		
	生物基礎演習	2							3		
	生物化学基礎演習	2									
体育	7~8	2	2	2	2	2	3	3	3	3	
保健	2	1	1	1	1	1	1				
芸術	音楽 I	2									
	美術 I	2	2	2							
	書道 I	2									
	音楽 II	2									
	美術 II	2						2			
	書道 II	2									
英語	音楽 III	2									2
	美術 III	2									
	書道 III	2									
	英語表現 I	2	2	2							
英語表現 II	4			3	3	3	3	3	3	3	
家庭	英語表現 III	4									
	家庭基礎	2	2	2				2			
フードデザイン	2									2	
情報	社会と情報	2	1	1					1	1	1
	総合的な学習	3	1	1	2	2	2	2	2	2	2
教科合計単位		36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
道徳								(1)		(1)	
特別活動	ホームルーム	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
週当りの授業時数		37	37	37	37	37	37	37	37	37	37

※SGクラスおよび本校で最も多いクラスのみを記載した。黄色部分がSGH対象。  
 ※数学演習・化学基礎演習・生物基礎演習・生物化学基礎演習は学校設定科目  
 ※SGコースについては総合学習の時間を探究科にあてる

本校は、福岡市西部の副都心の西新にほど近く位置し、生徒数約 1,350 名（高校：1,250 名、中学：100 名）、創立 58 年の全日制普通科の女子校である。創立者の中村ハルが教育者であり食の専門家であったことから、創立以来充実した食育を行っている。この創立者の精神を受け継ぎ、「食」に焦点を当てた課題解決を通じたグローバル人材の育成をテーマとして、平成 26 年度 SGH アソシエイト、翌 27 年度より SGH 校の指定を受けて事業を展開している。

## 1. 学年ごとの目標と主な取り組み

本校での SGH 事業における研究開発は、地球規模の課題である「食」に取り組む PBL を主軸としたカリキュラム開発である。また、本校の考えるグローバル・リーダー像とは、①地球規模の課題に対する深い関心を持ち、自主的に学習し教養を深めることができ、②多様性を認めながら、主体性を発揮できるためのコミュニケーション能力を持ち、③自ら課題を設定し、他者と協力して解決にあたることのできる資質を持つ人材である。これらの資質を身につけるために、学年ごとに目標を掲げ、それを達成すべく様々な取り組みを行っている。以下、学年ごとの目標と主な取り組みを挙げる。なお、本校での SGH 対象生徒は、1 年生全員、2・3 年生 SG クラス（各学年約 30 名）である。

**1 年次**：「グローバルマインドの醸造と広範な知識の獲得」…①グローバルキャンパス（全員参加の外国人留学生との 2 泊 3 日の宿泊研修。食に関する PBL により、ディスカッション、プレゼンテーションなどを英語で行う。）、②海外フィールドワーク（アメリカ・カリフォルニア州にて、食に関わる自己の探究課題について現地調査などを行う、ホームステイを含む約 10 日間の希望者による研修。）

**2 年次**：「課題解決能力の育成とコミュニケーション能力の飛躍的向上」…①探究科（後述）、②海外フィールドワーク（SG クラス修学旅行。マレーシア・シンガポールでの研修。個人の探究テーマに基づき現地の姉妹校や大学、日系企業と協力して調査などを行う。）

**3 年次**：「課題解決能力の獲得と世界への発信力の飛躍的向上」…①食のサミット（後述）、②論文（探究活動の成果物）作成

この他にも、SGH 報告会では、SG クラスによ

る活動報告や全校生徒が食のテーマに基づいたポスター発表などを行う。SG 講座・講演では、大学や企業などから講師を招き、グローバルな視点やキャリア形成、食に関するトピックなどを学ぶ機会を年に数回開催し、中学生や SGH 非対象の高校生を含めた学校全体として取り組み、本校のホームページにも掲載して事業成果の波及と向上を図っている。

## 2. 本校の先進的・特徴的な取り組みとしての「SG クラス」「探究科」および「食のサミット」

### (1) SG クラスの特徴

SG クラスは、SGH 事業の核となるクラスであり、2・3 年に 1 クラスを設けている。1 年次での食の学びに興味・関心を持ち、学びをさらに深化させ、グローバル・リーダーとしてのスキルの獲得を目指す生徒のクラスである。1 年 2 学期に希望者がエントリーし、英語面接やプレゼンテーションを課す選考会を経てメンバーを決定する。エントリーシートには、これまでの講演・講座の受講状況、レポートの提出数、資格、受賞歴などのポートフォリオを記すよう義務づけており、本校独自の基準を設けてこれらを点数化し選考資料としている。

また、クラスは、難関大学志望の生徒を集める特進コースの扱いであるが、放課後の課外を探究活動にあてることや、全ての教科指導をアクティブラーニング型で実施しているところに特徴がある。

### (2) 探究科

SG クラスでは、総合的な学習の時間を 2 単位に拡大し、教科横断型の「探究科」を設けている。これは、SGH 事業の核となる科目であり、2 年次では年間を 4 つのクールに分けて食に関する 4 領域を教科横断型の PBL で進めていく。これによって、食の知識・理解の深化とともに、問題点とその解決法を見出すためのトレーニングを重ね、特に興味・関心を持った領域の中から独自の課題を見出していく。昨年度の 2 年生で実施した授業内容は次表 1 の通りである。それぞれのクールにおける指導者は、個々の教科での指導内容ともリンクさせながら、探究科の指導チームを組んで専門領域を越えた指導を行っている。また、各クールでの評価にはルーブリックを用いることで、生徒は取り組む前に何が評価されるかを知り、取り組み後もどんな力が身につき、どこを修正・改善すればよいかがよく分かる

ようにしている。

表1 2年次「探究科」の実践計画（平成29年度）

項目	内容	実施月	時間数	教科
オリエンテーション	①活動内容の説明	4月	2コマ	全教科
第1クール 食と社会文化	①食と社会文化に関する講義・ブレインストーミング	4月	2コマ	地理公民科
	②6班に分かれ調査		2コマ	国語科
	③KP法によるグループ発表		2コマ	家庭科
	④各国の食事情の調査・発表	6月	2コマ	道徳科
	⑤茶道実習		6コマ	(外部講師)
	⑥ハラル料理に関する講演・ハラル調理実習		4コマ	
第2クール 食と環境	①食と環境の現状と課題の学習	6月	5コマ	理科
	②英語教材を用いた堆肥化の学習		2コマ	英語科
	③簡易コンポストの製作	9月	2コマ	国語科
	④外部講師による講話「食と農業」		1コマ	情報科
	⑤堆肥化データ計測と分析、課題の個人発表		4コマ	(外部講師)
第3クール 食と経済	①班ごとにテーマを設定	9月	4コマ	国語科
	②ボスターの製作		2コマ	数学科
	③文化祭での発表・実践	10月	-	(外部講師)
海外フィールドワーク	①しおり作成・事前学習	10月	2コマ	担任
	②マレーシア人留学生による講話		2コマ	引率者
	③海外フィールドワークの実践	11月	-	(外部講師)
	④班ごとの発表（スライド）、個人探究レポートの作成・評価		3コマ	
第4クール 食と栄養	①世界の給食	11月	2コマ	家庭科
	②日本の給食とお弁当、献立の作成、栄養価計算		4コマ	地理公民科
	③班ごとの調理実習・相互評価	12月	2コマ	情報科
今年度の活動のまとめ	①ポートフォリオの作成	2月	2コマ	情報科
	②SG報告会準備		4コマ	担任
次年度準備	個人探究	3月	4コマ	担任

3年次は、2年次に決めた自己の探究課題から問題点を見出し、その解決法を探っていく。生徒は、最終的にこれを論文としてまとめて提出する。

### (3) 食のサミット

#### ①目的と位置づけ

生徒たちがこれまで取り組んできた一連の探究活動の集大成の場が「食のサミット」である。

第1回大会は、中村学園大学主催の「薬膳EXPO2017」との共催行事として、昨年9月1日に福岡国際会議場で開催した。ここに至るまでに生徒たちは、1年次における食の広範な知識の獲得に始まり、2・3年次のSGクラス探究科において課題設定と問題点の抽出およびその解決法を探ってきた。これと同様の手法で、サミットのテーマに基づいた課題設定と問題点の抽出を行い、チームで考案した解決法を披露する。さらに世界各国から選抜され集まった中高生と意見交換して議論を重ね、共同提言書を作成し、国連関係機関（国連WFP協会など）に提出することで、永続的で協働的な問題解決へのメッセージを国内外へ発信する。

#### ②実施までの流れ（今年度）

- ・テーマ決定・募集要項作成：1月末まで
- ・エントリー開始：2月より
- ・エントリーメ切：3月末まで
- ・本選出場者選考：4月末まで

・出場者来校／プレ会議：7月27日（土）

・サミット：7月28日（日）

#### ③サミット概要（下表2）

参加資格は世界各国の中高生であり、エントリーにはチーム名、メンバー名（3～5名）、提言書（大会テーマに基づいたチーム独自のテーマ、課題とその解決法を記入したもの）、主張ビデオ（課題とその解決法をまとめた動画）の提出が必要である。エントリーしたチームの提言書と主張ビデオを実行委員会で選考する予選を行い、本校1チームを含む全6チームを本選出場とする。本選では、主張プレゼンテーションと質疑応答を行い、参加者全員の投票と審査委員によるルーブリック評価により、最優秀チームを選考し表彰する。また、サミット前日にプレ会議を開催し、各チームの提言案をまとめて共同宣言案を作成する。これをサミット当日に最終調整し、共同宣言書としてまとめ、国連関係機関（昨年度は国連WFP協会）に提言する。

表2 食のサミット2018スケジュール（予定）

時刻	内容〔場所〕
1日目：7月27日（金）	
13:30	午前中までに各チーム福岡入り、本校到着 食のサミットプレ会議〔視聴覚室〕 全体会→分科会→全体会 17:30終了
2日目：7月28日（土）	
出場チーム 参加者（教職員含む）	
9:00	リハーサル〔講堂〕 11:30 生徒登校・HR〔教室〕
12:30	スタンバイ完了 12:20 講堂入場完了
12:00	開場
12:30	歓迎レセプション ①チーム入場 ②生徒代表挨拶 ③参加校・チーム紹介 ④校歌斉唱 ⑤バトン部演技披露
13:00	食のサミット開会 《開会行事》 ①開会宣言 ②校長挨拶 ③来賓・審査員紹介
13:10	《第1部：コンテスト本選》開始 第1グループ3校：①主張プレゼン(5分)、②質疑応答(5分) 第2グループ3校：③主張プレゼン(5分)、④質疑応答(5分) ⑤評価・投票(5分) 投票後、休憩
14:30	《第2部：郷土料理ショー》開始 出場チーム各国の郷土料理の紹介と実食
15:15	《第3部：共同宣言策定》開始 ①趣旨・経過説明 ②共同宣言案の提示 ③討論 ※プレ会議のビデオ上映 ④共同宣言
15:40	《閉会行事》 ①記念品授与 ②結果発表 ③表彰 ④講評 ⑤閉会宣言
16:00	閉会
17:30	懇親会（審査員・来賓対象） 20:00終了 フェアウェルパーティー（生徒対象） 19:30終了

#### ④サミットテーマ

世界の中高生に向けて、食に関わる諸問題の解決策を考えるためのテーマを定めている。昨年度は、「グローバルイゼーションと郷土料理」「飢餓と貧困の撲滅」「浪費的な消費の削減」「健康的な食生活」からの選択とした。このような選択形式は、取り組みやすさという面では良かったものの、共同宣言案の

策定において各チームの主張に内容的な隔たりがあり取りまとめに苦労した。したがって、今年度は「水と食を取り巻く諸問題とその解決策」のように1つに絞った形で決定した。

また、このテーマは2月に中学生を含む全校生徒で実施した「SGH 報告会」のポスター発表のテーマと共通のもので、できるだけ早期に食のサミットへの関心を深めさせることをねらいとした。

#### ⑤参加者全員による主体的な活動の場にする工夫

会場内の参加者全員がサミットに関心を持ち、より主体的に臨めるように次のような工夫を行った。

- ・ 予選動画の視聴と本選出場チームを選ぶ投票。
- ・ 本選出場者の最優秀チームを選ぶ投票。
- ・ パネルディスカッションへの参加。(今年度は「郷土料理ショー」への参加を予定)

#### ⑥結果と成果(昨年度)

- ・ 予選エントリー：7ヶ国 27 チーム
- ・ 本選出場チーム：5ヶ国 6 チーム(下表3)

表3 本選出場チームとトピック

チーム名(国名)	トピック
最優秀 The Wonder Kidz (マレーシア)	浪費的な消費の削減
R. E. A. C. H (アメリカ)	貧困と飢餓の撲滅
SAN (ウズベキスタン)	食糧との向き合い方
渡来人(韓国)	グローバルゼーションと郷土料理
LOVE FOOD (本校)	浪費的な消費の削減
To Eat (本校)	日本食の衰退

- ・ 審査(評価)項目：表4のルーブリックを5名の審査員が使用し、一般参加者および生徒からの投票数の合計で最優秀を決定し、表彰した。
- ・ サミット前後のアンケート(15項目)の結果分析：これによると、いずれの項目においても事前に比べ事後の方が肯定的に捉えている回答が増加し、サミット実施による期待した効果があった。主な調査項目は次の通り。

途上国に存在する課題や解決策に関する興味/日本社会に存在する解決への意思/「食」に関する課題解決への興味/外国人の価値観に触れることへの興味・関心/海外渡航への意欲

表4 最優秀選考のためのルーブリック評価表

評価項目	非常に良い(5)	さらに上を目指せ(3)	改善を要する(1)
着眼点・一貫性	着眼点が十分に適切かつ明確である。内容にブレが見られない。	着眼点の一部が不適切か不明確。または内容にわずかなブレが見られる。	着眼点が不適切かつ不明確である。かつ内容にブレが見られる。
解決妥当性 ※得点2倍	問題解決に相応しい。かつ客観的に見て十分に実現可能である。	問題解決に相応しいが、客観的に見て実現の可能性がやや低い。	問題解決に相応しくない。または、客観的に見て実現可能でない。
工夫・表現力	理解しやすい効果的な話し方や見せ方などの工夫が随所に見られる。	理解しやすい話し方や見せ方などの工夫が一部に見られる。	理解しやすい話し方や見せ方などに工夫がほとんど見られない。

#### ⑦課題と改善点

- ・ サミット開催により次のような課題があげられ、次回の開催へ向け各部署で改善を図っていく。
- ・ 参加する生徒の英語運用能力を高める。  
→探究科および英語の授業での英語プレゼンやディベートの機会を増やし、実践力を養う。
- ・ 実行委員(運営する職員)の組織化を進める。  
→実行委員総務を増員し、負担減を図る。
- ・ エントリー数を増やす方策を考える。  
→ホームページや口コミでの広報活動を強化する。
- ・ プレ会議までに、参加チームの提言について相互に意見交換を進めておく。

→6、7月に本選出場チームとのビデオ会議を開催。

#### ⑧今後のサミットへ向けて

- ・ 予算規模縮小により他校チームの誘致が年々困難になってきているが、サミットを継続するために次のような方策を検討している。
- ・ 海外チームには、可能な限りの費用負担をお願いして参加を募る。来日が難しい場合には、ネットによるライブ配信などの代替手段を検討する。
- ・ 参加対象チームの枠を姉妹校や提携校、あるいは県内や九州内の学校に転換し、「福岡(九州)食のサミット」という形で実施する。

このサミットを通じての参加生徒たちの成長は計り知れないものがある。本校のSGH事業で培った特色を出しながら、開催を継続していきたい。